

山西小学校での体育の授業のひとつ

1年生は体育の授業を学年合同で行っています。児童会活動としてドッジボール集会在近く予定されており、その練習を兼ねて試合形式で取り組みました。

全員が集合しようとしている中、遅れて校庭に出てくる児童がいました。日課や制限時間といった枠組みの中で行動すること、手際よく作業することが苦手で、体操服に着替えるのに時間がかかってしまったようです。これまで、うまくいかないことがあると固まったり拗ねたりして授業が終わってしまうこともありましたが、3学期ともなると、だんだん自分一人で行えることが増え、また一人でやろうとする意欲も高まり、気持ちの切り替えに時間がかからなくなってきました。

この日この児童は、はじめは校庭で少し拗ねていましたが、試合をするためにみんなが整列しているのを見ると、サッと走って列に加わり、その後はボールを当てられないように周囲の様子を見ながら楽しそうに動いていました。

物事にうまく集中できない子や作業が苦手な子には、友達や先生が声をかけたり、コツを教えたり、ときには手伝うことが必要なこともあるでしょう。一方で、じっと見守ることも必要です。そのタイミングとレベルは、極端に言えば一人一人違いますが、今日の授業のひとつは、じっと待つことによる子どもたちの自律的な成長・成熟を感じたひとときでした。



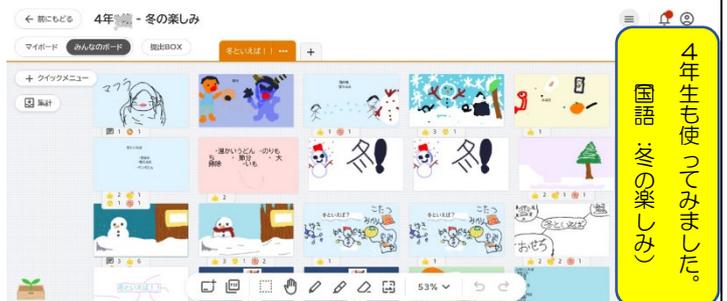
オクリンプラスはじめのいっぽ

この日、3年生は保健の学習で「自分がリズムのある生活を送る」ために、日頃の生活を振り返る中で、どのような工夫をしたらよいかを考えていました。授業の前半は、教科書の挿絵を見たり設問に回答したりしたあと、友達の意見を聞き合う中で学んでいきました。

一つのテーマで学習の区切りをつけた頃、先生が子どもたちに、タブレット端末を用意して「ミライシード」の「オクリンプラス」を起動させるよう指示しました。「オクリンプラス」とは、授業支援アプリといわれるもので、子どもたちがタブレット端末で作成したメッセージや画像などをクラス等で共有し、互いのよいところを評価し合ったり、自分の考えや作品により磨きをかけたりすることに使うことができます。

実は、この授業の2日前に教職員対象の研修で「オクリンプラス」の使い方を学んだばかりで、教室での使用が初めてだったのですが、先生も一生懸命説明しながら実演し、子どもたちも見よう見まねで意見のカードを作り上げました。画面上で友達のカードが共有されて一覧できるさまを目の当たりにしたときには、「わー！」と歓声が上がりました。

この日はあくまでも「試用」が目的でしたが、授業の節目に先生がこのアプリを使うよさを熱く語っていたのが印象的でした。これからどんどん使ってなじんでいけば、このアプリも協働的な学びの強力なツールになることでしょう。



4年生も使ってみました。
国語「冬の楽しみ」

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

